

第2章 看護職員の従事状況

看護職員の令和5年度の従事状況を把握するため、県内全ての病院及び訪問看護事業所を対象として、採用者及び退職者の状況について調査を行った。

調査年月日	調査対象	送付数	回収数	回収率
令和6年8月～10月	県内病院	137	136	99.3%
	県内訪問看護事業所	172	129	75.0%

1 病院における看護職員の従事状況

(1) 令和5年度の採用状況

令和5年度は、募集人数1,658人に対し、採用人数は1,339人である。
 職種別でみると、看護師が1,166人で最も多く、次いで准看護師143人、助産師25人、保健師5人となっている。
 また、年齢別でみると、20歳代が771人(57.6%)、30歳代が217人(16.2%)、40歳代が183人(13.7%)となっており、20歳代から40歳代が全採用者の87.5%を占めている。

表1 職能別採用状況 (単位：人)

区分	保健師	助産師	看護師	准看護師	計
募集	5	35	1,376	242	1,658
採用	5	25	1,166	143	1,339
新卒者※	4	13	548	34	599
県外養成所卒	0	9	85	2	96

※「新卒者」とは、看護師等学校養成所を卒業し、初めて就業する者

表2 年齢別採用状況 (単位：人)

年齢	20歳未満	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	計
人数	15	771	217	183	111	42	1,339
割合	1.1%	57.6%	16.2%	13.7%	8.3%	3.1%	100.0%

(2) 令和5年度の退職状況

令和5年度の退職者は1,413人である。
 勤務年数別でみると「1～5年」が605人(42.8%)で最も多く、年齢別でみると「20～29歳」が448人(31.7%)で最も多い。
 退職者のうち「自己都合による退職」が9割以上を占め、自己都合退職の理由としては、「他の職場(看護職)への興味」、「健康上の理由(身体的)」、「健康上の理由(精神的)」が多い。また、年齢が上がるほど、「健康上の理由(身体的)」が多く、年齢が若いほど「健康上の理由(精神的)」が多い。新卒者においては、「健康上の理由(精神的)」が最も多い。

表3 職能別退職状況 (単位：人)

区分	保健師	助産師	看護師	准看護師	計
退職	11	22	1,159	221	1,413
自己都合	11	20	1,100	203	1,334

表4 退職時の勤務年数

(単位：人)

勤務年数	1年未満	1～5年	6～10年	11～15年	16～20年	21年以上	計
人数	240	605	218	138	77	135	1,413
割合	17.0%	42.8%	15.4%	9.8%	5.4%	9.6%	100.0%

表5 退職時の年齢

(単位：人)

年齢	20歳未満	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	計
人数	3	448	359	249	172	182	1,413
割合	0.2%	31.7%	25.4%	17.6%	12.2%	12.9%	100.0%

表6 自己都合退職の理由（複数回答）

(単位：人)

	～19歳	20代	30代	40代	50代	60歳～	合計	新卒 (再掲)
結婚	0	54	31	5	1	0	91	2
出産・育児	0	8	35	10	0	0	53	0
健康上の理由（身体的）	0	14	17	16	32	63	142	1
健康上の理由（精神的）	0	52	31	22	7	5	117	18
親族の健康・介護	0	13	11	15	21	21	81	1
転居	0	46	35	21	9	3	114	0
他の職場（看護職）への興味	1	115	74	65	36	4	295	8
他職種への興味	0	25	14	12	7	1	59	0
キャリアアップ目的	0	14	8	5	0	1	28	0
給与についての不満	1	22	13	6	6	10	58	1
休暇についての不満	0	1	1	1	0	0	3	0
超過勤務、夜勤の負担	1	22	7	5	7	12	54	0
人間関係の悩み	1	30	19	20	14	3	87	2
自分の適性・能力への不安	1	37	16	16	11	4	85	4
医療事故や責任の重さへの不安	0	12	4	5	6	10	37	0
その他 ※	1	70	52	33	35	49	240	8

※ 家庭の事情、奨学金返還期間満了、地元へUターン（県外）、家事専念、業務負担、職場への不満（異動辞令等）、通勤の負担、本人の問題、現実とのギャップ 等

2 訪問看護事業所における看護職員の従事状況

(1) 令和5年度の採用状況

令和5年度は、募集人数159人に対し、採用人数は90人である。
 職種別で見ると、看護師が84人、准看護師が6人となっている。
 また、年齢別で見ると、50歳代が29人(32.2%)で最も多く、次いで30歳代が23人(25.6%)である。新卒者の採用はなかった。

表7 現員数(令和6年4月1日現在) (単位:人)

保健師	助産師	看護師	准看護師	計	看護補助者
21	0	688	71	780	11

【参考】その他の職員 (単位:人)

理学療法士	作業療法士	言語聴覚士	事務	その他	計
124	59	17	58	2	260

表8 職能別採用状況 (単位:人)

区分	保健師	助産師	看護師	准看護師	計
募集	0	0	120	10	130
採用	0	0	84	6	90
新卒者※	0	0	0	0	0

※「新卒者」とは、看護師等学校養成所を卒業し、初めて就業する者

表9 年齢別採用状況 (単位:人)

年齢	20歳未満	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	計
人数	0	15	23	19	29	4	90
割合	0.0%	16.7%	25.6%	21.1%	32.2%	4.4%	100.0%

(2) 令和5年度の退職状況

令和4年度の退職者は102人である。
 勤務年数別で見ると、5年以内の退職が75.0%を占めており、年齢別で見ると、40歳代が25人(29.8%)で最も多い。
 退職者のうち「自己都合による退職」が8割以上を占め、自己都合退職の理由としては、「健康上の理由(身体的)」、「自分の適性及び能力への不安」が多い。

表10 職能別退職状況 (単位:人)

区分	保健師	助産師	看護師	准看護師	計
退職	5	0	71	8	84
自己都合	4	0	60	7	71

表1-1 退職時の勤務年数

(単位：人)

勤務年数	1年未満	1～5年	6～10年	11～15年	16～20年	21年以上	計
人数	21	42	9	10	1	1	84
割合	25.0%	50.0%	10.7%	11.9%	1.2%	1.2%	100.0%

表1-2 退職時の年齢

(単位：人)

年齢	20歳未満	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	計
人数	0	9	18	25	21	11	84
割合	0.0%	10.7%	21.4%	29.8%	25.0%	13.1%	100.0%

表1-3 自己都合退職の内容（複数回答）

(単位：人)

	～19歳	20代	30代	40代	50代	60歳～	合計	新卒 (再掲)
結婚	0	0	0	0	0	0	0	0
出産・育児	0	1	2	0	0	0	3	0
健康上の理由（身体的）	0	1	1	2	7	3	14	0
健康上の理由（精神的）	0	0	0	1	1	0	2	0
親族の健康・介護	0	1	1	3	0	1	6	0
転居	0	5	2	1	1	0	9	0
他の職場（看護職）への興味	0	2	2	6	1	0	11	0
他職種への興味	0	2	4	2	1	0	9	0
キャリアアップ目的	0	0	0	0	0	0	0	0
給与についての不満	0	1	0	1	0	0	2	0
休暇についての不満	0	0	0	2	0	0	2	0
超過勤務、夜勤の負担	0	0	0	0	0	0	0	0
人間関係の悩み	0	0	0	4	3	1	8	0
自分の適性 ^{※1} への不安	0	1	1	2	3	0	7	0
自分の能力 ^{※2} への不安	0	1	0	2	2	0	5	0
医療事故や責任の重さへの不安	0	1	0	1	1	1	4	0
その他 ^{※3}	0	0	3	1	1	1	6	0

※1 適性：自分の価値観や性格等が訪問看護の仕事内容にあっているかどうか（向き不向き、やりがい、運転が苦手等）

※2 能力：訪問看護に求められる看護知識、技術、判断など（コミュニケーション能力、アセスメント能力等）

※3 新規事業所開設、土日休み希望、家庭の事情 等

3 専門性の高い看護職員の従事状況

(1) 病院における認定看護師の配置状況

病院における認定看護師の従事者数は291人であり、分野別で見ると、「感染管理」が最も多く、次いで「緩和ケア（A課程）」が多い。

表14 病院における認定看護師従事者数（令和6年7月現在）

認定者数（実）		291				
分野別 認定者数 （実）	A 課程	救急看護	12	B 課程	クリティカルケア	12
		集中ケア	10		皮膚・排泄ケア	7
		皮膚・排泄ケア	21		緩和ケア	4
		緩和ケア	23		がん薬物療法看護	5
		がん性疼痛看護	4		在宅ケア	0
		がん化学療法看護	18		感染管理	22
		訪問看護	0		糖尿病看護	1
		感染管理	47		生殖看護	0
		糖尿病看護	10		新生児集中ケア	0
		不妊症看護	0		腎不全看護	1
	新生児集中ケア	6	手術看護	0		
	透析看護	3	乳がん看護	0		
	手術看護	8	摂食嚥下障害看護	3		
	乳がん看護	2	小児救急看護	0		
	摂食・嚥下障害看護	13	認知症看護	5		
	小児救急看護	0	脳卒中看護	0		
	認知症看護	16	がん放射線療法看護	0		
	脳卒中リハビリ看護	7	慢性呼吸器疾患看護	1		
	がん放射線療法看護	4	慢性心不全看護	0		
	慢性呼吸器疾患看護	4				
慢性心不全看護	5					
精神科看護	17					

(2) 訪問看護事業所における認定看護師の配置状況

訪問看護事業所における認定看護師の従事者数は13人であり、分野別で見ると、「精神科看護」が最も多く、次いで「訪問看護（A課程）」が多い。

表15 訪問看護事業所における認定看護師従事者数（令和6年7月現在）

認定者数（実）		13				
分野別 認定者数 （実）	A 課程	救急看護	1	B 課程	クリティカルケア	0
		集中ケア	0		皮膚・排泄ケア	0
		皮膚・排泄ケア	3		緩和ケア	0
		緩和ケア	0		がん薬物療法看護	0
		がん性疼痛看護	0		在宅ケア	0
		がん化学療法看護	0		感染管理	0
		訪問看護	3		糖尿病看護	0
		感染管理	0		生殖看護	0
		糖尿病看護	0		新生児集中ケア	0
		不妊症看護	0		腎不全看護	0
	新生児集中ケア	0	手術看護	0		
	透析看護	0	乳がん看護	0		
	手術看護	0	摂食嚥下障害看護	0		
	乳がん看護	0	小児プライマリケア	0		
	摂食・嚥下障害看護	0	認知症看護	0		
	小児救急看護	0	脳卒中看護	0		
	認知症看護	0	がん放射線療法看護	0		
	脳卒中リハビリ看護	0	慢性呼吸器疾患看護	0		
	がん放射線療法看護	0	慢性心不全看護	0		
	慢性呼吸器疾患看護	0				
慢性心不全看護	0					
精神科看護	6					

(3) 病院における特定行為研修修了看護師の配置状況

病院における特定行為研修修了看護師の従事者数は145人であり、区分別で見ると、「栄養および水分管理関連に係る薬剤投与関連」が多く、次いで「創傷管理関連」、「感染に係る薬剤投与関連」が多い。

表16 病院における特定行為研修修了看護師従事者数（令和6年7月現在）

修了者数（実）		145
区分別修了者数（延）	呼吸器（気道確保に係るもの）関連	31
	呼吸器（人工呼吸療法に係るもの）関連	46
	呼吸器（長期呼吸療法に係るもの）関連	45
	循環器関連	6
	心嚢ドレーン管理関連	2
	胸腔ドレーン管理関連	7
	腹腔ドレーン管理関連	9
	ろう孔管理関連	19
	栄養に係るカテーテル管理（中心静脈カテーテル管理）関連	30
	栄養に係るカテーテル管理（末梢留置型中心静脈注射用カテーテル管理）関連	20
	創傷管理関連	54
	創部ドレーン管理関連	20
	動脈血液ガス分析関連	27
	透析管理関連	7
	栄養および水分管理関連に係る薬剤投与関連	112
	感染に係る薬剤投与関連	54
	血糖コントロールに係る薬剤投与関連	28
	術後疼痛管理関連	14
	循環動態に係る薬剤投与関連	20
	精神および精神症状に係る薬剤投与関連	20
皮膚損傷に係る薬剤投与関連	4	

(2) 訪問看護事業所における特定行為研修修了看護師の配置状況

訪問看護事業所における特定行為研修修了看護師の従事者数は6人であり、区分別で見ると、「栄養および水分管理関連に係る薬剤投与関連」が多く、次いで「創傷管理関連」が多い。

表17 訪問看護事業所における特定行為研修修了看護師従事者数（令和6年7月現在）

修了者数（実）		6
区分別修了者数（延）	呼吸器（気道確保に係るもの）関連	0
	呼吸器（人工呼吸療法に係るもの）関連	2
	呼吸器（長期呼吸療法に係るもの）関連	2
	循環器関連	0
	心嚢ドレーン管理関連	0
	胸腔ドレーン管理関連	0
	腹腔ドレーン管理関連	0
	ろう孔管理関連	3
	栄養に係るカテーテル管理（中心静脈カテーテル管理）関連	0
	栄養に係るカテーテル管理（末梢留置型中心静脈注射用カテーテル管理）関連	0
	創傷管理関連	4
	創部ドレーン管理関連	1
	動脈血液ガス分析関連	0
	透析管理関連	0
	栄養および水分管理関連に係る薬剤投与関連	6
	感染に係る薬剤投与関連	2
	血糖コントロールに係る薬剤投与関連	2
	術後疼痛管理関連	0
	循環動態に係る薬剤投与関連	0
	精神および精神症状に係る薬剤投与関連	2
皮膚損傷に係る薬剤投与関連	0	